

大学生協奨学財団がめざすこと

日本の高等教育における本人・家計負担は、国際的にも高いものになっているにもかかわらず、公的支援は甚だ不十分です。学生の多くは、日々の生活を支えるためにアルバイトでの収入にたよらざるをえない側面が強まっています。そうした中で、扶養者・家計支持者のご不幸は、学業継続により一層の困難をもたらします。

大学生協は大学生生活を支える保障制度を組合員におすすしめし、育ててきました。さらに、1991年から奨学援助制度を開始し、扶養者のご不幸に際し学業継続のための緊急支援を、全国の大学生協と組合員からの寄付で賄ってきました。この取り組みは、今日まで28年間にわたり続いており「たすけあい」の想いを広げ、培ってきました。

その想いを日本の大学・社会に大きく広げるために、全国の大学生協は、全国大学生協連を設立者として、その法人化60周年を記念する年に大学生協奨学財団を立ち上げました。これまでに、全国の大学生協と大学生協奨学財団が連携した取り組みを行い、日本の社会と大学に「たすけあい」の想いを広げることがめざします。

給付を通じて全国の大学生協の、顔のみえない仲間から援助があったことが受給者の心の支えにもなっています。

大学生協奨学財団は奨学援助制度の想いを継承し、緊急時の経済的・精神面な支えを広げ、社会に貢献をします。

大学生協は、組合員のたすけあいの組織として生まれ、大きく発展してきました。今では、大学コミュニティのみならず社会的にも注目される重要な存在となっています。これまでもユニセフ募金や被災地支援など、組合員の協同の想いが形になり社会に貢献してきました。同じように、大学生協の無い大学の学生も視野に入れながら、奨学金がすべての応募者に給付できること、新たな奨学内容を盛り込んだ制度を拡大することが願いです。

大学生協奨学財団は、これまで培ってきた「たすけあい」の想いと行動を土台に、すべての高等教育機関に「たすけあい」の取り組みを広げることで大学生協の価値を高めることにも貢献します。

学びの機会をあきらめたくない学生のためにも、「たすけあい」の想いに賛同する人・団体を、他の協同組合・企業等に拡大し、関わる方すべてに、大学生協奨学財団へ貢献することが、学生を応援し、社会の財産になると感じられるようにしていきます。

大学生協奨学財団は、大切な財源を管理し、公正で安定的な運用をめざします。

私たちは、全国の大学生協とともに、めざすことの内容を具体化し、奨学金給付をはじめとする事業の内容及び規模で社会に誇れる「大学生協奨学財団」をつくりあげ、大学生協とともに、大学社会・日本社会に「たすけあい」の想いと協同の精神を広げ、学生の修学支援をして社会貢献をしていきます。

2019年12月14日
全国大学生協連奨学財団